

熱 砂

熱沙祭を終えて

一どこまでも広げよう 好奇心の輪、いっぱい知って実体験、つなげよう心と心一

熱沙祭プロジェクト 教諭 東上 渉

「輝け 私たちのストーリー」のスローガンのもと、第36回熱沙祭が終了しました。今年度は熱沙祭実行委員会を立ち上げ、G3からG9まで各学年2名の実行委員を中心に、「スローガンの作成」、「熱沙祭の歌の練習」、「各ブロックの劇の紹介」など児童生徒主体で活動を行いました。特に今年度は、児童生徒全員で「熱沙祭の歌」を歌うことになり、実行委員が中心となって昼休みに練習を重ねてきました。その練習の成果もあり、児童生徒の心が一つになって熱沙祭の幕が開けたと思います。歌のすぐ後にはドバイ日本人幼稚園の園児による発表があり、一生懸命演じる姿がほほえましく、あたたかい気持ちで見ることができました。体育館を熱沙祭の舞台にしてくれたのがこのドバイ日本人幼稚園の園児たちでした。

G1・2の小学部低学年ブロックが演じたのが「じゅげむ」でした。かわいい落語家になりきり、ドバイならではのなぞかけで始まった劇に、会場全体が笑いに包まれ、引き込まれていきました。「じゅげむ」の名前を呼ぶくだけでは、最後までしっかり言えるかなと少し心配な心持ちでみんな見ていたせいか、言えた後には見ている方もほっとして拍手が起きていました。最後にみんなで「じゅげむ」を踊りながら唱える場面では自然と手拍子が出て会場全体が盛り上がりました。劇が終わった後には、他の学年の児童生徒が思わずつぶやくほど印象に残る劇だったと思います。あの長い「じゅげむ」の名前を覚えたことはG1・2の児童にとって、きっと大きな自信になったことと思いますし、一生覚えているのではないかと思います。

G3・4の小学部中学年ブロックが演じたのは「あの日 あの時 この星で」でした。「魔物とそれに立ち向かう子どもたち」という対決物のわかりやすい設定の中に、現代社会の問題を織り交ぜ、メッセージ性の強い劇になっていました。魔物を演じた児童たちの悪の雰囲気や、現代社会に暮らす人々の利根的な様子が一生懸命な演技で表現されていたと思います。そして、子どもたち全員がつないでいったメッセージの最後のセリフ「この星に生まれてきた意味を、この星を守っていくために」の言葉が胸に響いてきました。その後の全員のダンスで、この星の明るい未来が見えたのではないのでしょうか。

G5・6の小学部高学年ブロックが演じたのは「宇宙へ」でした。設定がドバイ日本人学校そのものであったため、演技をしながらも普段の様子も垣間見ることができ、楽しむことができました。そして、劇の中に織り込まれた歌の数々。男女の歌の掛け合いや踊りなどもあり、ミュージカルを見ているような雰囲気になりました。また、会場全体が笑いの渦に包まれた「宇宙へ行くためのトレーニングの場面」。あの場面はなんとアドリブがほとんどで、指導していた先生たちも当日の演技には驚いたそうです。普段より長めになったのは、あれだけ会場を笑わせたからに違いありません。最後の宇宙人を撃ってしまった場面はショックでしたが、その後のオチで救われ、また笑いの中に引き込まれていきました。あの場面が引き立ったのもそれまでの演技があつてのことなので、高学年ブロックの演技力の高さを感じました。

最後にG7・8・9の中学部ブロックが演じたのは「Clover」でした。学校というわかりやすい設定でありながら、不思議な登場人物たちを演じなければいけない難しい劇でもありました。それぞれが役にな

りきるために話し合いを行い、細かい動作や言い回しまで工夫をし、練習を重ねていました。また、同じ人物を二人で演じる役も多かったため、役の雰囲気に合わせていくのも大変だったようです。しかし、当日はそれぞれの役をしっかりと演じることができており、劇に引き込まれていきました。それぞれの役が伝えたい思いもしっかりと伝わったことと思います。中学部は、脚本作成、練習計画、音響、背景、小道具、オープニング、エンディング映像、当日の照明など全て生徒が担当して行っていました。一人一人が自分の役割を理解し、しっかりと仕事を行い、それがかみ合って当日の素晴らしい劇になったのだと思います。改めて、中学生のすごさを感じた熱沙祭でもありました。

熱沙祭を振り返ってみると、児童生徒、教員共に大変な三週間でしたが、それがあったからこそ当日の達成感を味わうことができたのだと思います。この熱沙祭を通して、児童生徒たちは多くのことを学び、仲間とつながり合うことの大切さを身につけたのではないのでしょうか。大勢の観客の前で舞台に立つ貴重な体験をすることができました。今後の成長が楽しみです。

保護者、来賓の皆様には、児童生徒たちへ惜しみない声援と盛大な拍手をいただきまして本当にありがとうございました。



10月のトピックス

現地校交流—5校の現地校をドバイ日本人学校に招待しました—

G1～G9までの現地校児童生徒を、1学期に訪問した学校を中心に招待しました。日本の遊びを教える学年や、書道と一緒に取り組む学年など様々な交流が見られました。英語を一生懸命話しかけて日本の文化を伝えようとする姿があり、とてもよい交流となりました。今後も、このような交流を続けていきます。



避難訓練

10月28日（日）に、不審者侵入を想定した避難訓練を行いました。不審者がG5教室に侵入した後、児童生徒全員はパニックルームへ避難しました。すべての学年が、速やかに近くのパニックルームへと避難することができました。不測の事態が起きたときは、「逃げる、隠れる」ということを確認し合うことができました。不審者役は総領事館職員の方に担っていただきました。ご協力いただき、大変ありがとうございました。パニックルームは外務省の援助で昨年、校内に3か所作られました。

Sharjah Book Fair 2018

10月31日（水）に、シャルジャブックフェアにG5・6の児童が参加し、DJSソーランを披露しました。一生懸命踊りを披露し、日本の伝統を伝えることができました。